

くまうちの日までに

岸 武雄・作 金の星社



おれが十五の春、山小屋の近くで、くまとばったり会った。

あいにくとおれは、まるごし。

たかし、こんな場合、おまえやったらどうするえ？

なに、逃げる？

なに、木へのぼる？

なに、死んだまねをする？

みんなあかんぞ、おれは右手をにぎりしめたんやさ。

ミリ子は負けない

寺村輝夫・作 金の星社

4年1組に転校した小さな女の子みち子は、大声で活発、豆台風みたい。

たちまちミリ子とあだ名がつく。

走るのは、ずばぬけて早い、水泳はにがて。

それなのに水泳大会に出場。

スポーツを通して集団生活の大切さを学んで

成長する健康な現代っ子。



みつばちの家族は50000ぴき

大村光良・作 分研出版

50000匹(ぴき)もいるみつばちの家族(かぞく)は、どんなくらしをしているのかな？

巣の中にいる女王ばちは、1ぴきだけ。オスばちは、なんぴきもいますが、女王

ばちと結婚できるのは1ぴきだけです。しかも、一度きりのしんこん旅行でちからつきて死んでしまいます。

はたらきばちは、女王ばちやかぞくを守(まも)るためどんな仕事をしているのでしょうか。

みずばちたちのせいかつをのぞいてみませか？



やまんば おゆき

浜野卓也・作 国土社

昔、春さきの雪どけのころになると、

ある山の村では、老人が60才になると巡礼(じゅんれい)の旅に出ました。

そして、二度と村へもどってこないのがしきたりでした。

60才をむかえたおゆきは、たびだちの前夜、村からすがたを消してしまいます。

なぜ？

